

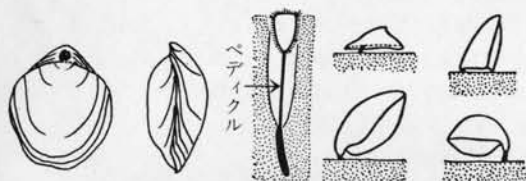
トピックス

■ ロビー展「腕足動物」

二階ロビーに、腕足動物の化石種から現生種までを展示しています。少々聞きなれない動物名なので、今回はその腕足動物について紹介します。

腕足動物には殻が二枚あって、その中に軟体部が入っています。ちょうど二枚貝のように見えるので、腕足貝といわれることもあります。体のつくりをみると、全く別の系統の生き物であることがわかります。彼らはペディクルという“ヒモ”のようなものを出して、他の物体に付着して生活をしています。腕足動物は今から約5.3億年前(古生代カンブリア紀)から現在までの長い間、海の中に生きている動物です。古生代の中頃に繁栄しましたが、古生代末(約2.4億年前)までにその大半は絶滅してしまいました。現在は約70属225種が細々と生存しています。腕足動物は、コケムシやホウキムシなどと共に触手動物とよばれることもあります。

(G)



ホオズキチョウチン(現生) いろいろな腕足類の生活時の体制

星の和名シリーズ 3

—カシオペア座—



●やまがたぼし

北東の空にMの形に5つの星が並んでいます。和名はこの星の形をぴたりといいあてています。



■ IRAS・荒貴・オルコック彗星

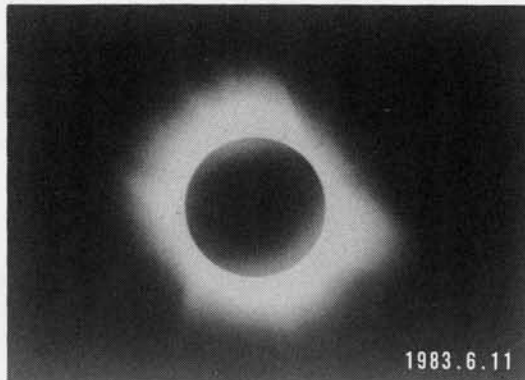


1983.5.9

5月3日、新潟県の荒貴源一氏他により発見された彗星はその後次第に明るくなり、富山市でも肉眼で見られるようになりました。特に5月9日は天候に恵まれ、約3等星の明るさで北の空にボヤーとした姿を見せました。この彗星の特徴的なことは地球に非常に近づいたことでした(約450万km)。そのため移動が速く、10日や11日には20~30分で移動していることがわかるほどでした。(W)

■ インドネシア日食

6月11日、インドネシアからニューギニアにかけて皆既日食が見られました。当日は朝から熱帯特有の焼けつくような太陽が顔をみせていましたが、太陽が欠けるにつれ涼しくなり、皆既中は肌寒いぐらいでした。皆既中は星が2個程見えましたが、空は青色を残し、思ったより明るい空でした。まわりの地平線上が全て赤く染まり、夕焼けのような景色が印象的でした。太陽のまわりはハケではいたような青白い線が集まったコロナが見えました。そして表面近くにはプロミネンスが輝き、コロナに色彩りをそえていました。(W)



1983.6.11